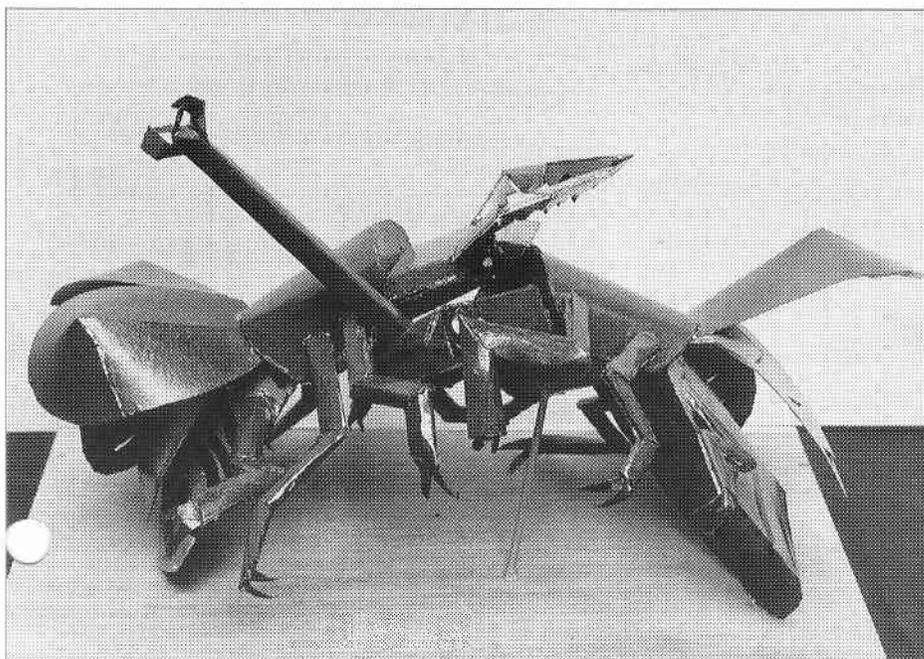


# 第14回全道小中学生立体造形展

## 文部大臣奨励賞

札幌市立緑丘小学校5年 須川 朋之



### 「くわがたとかぶと虫の決闘」

◎厚紙を使って迫力ある決闘シーンを表現した  
アイデアに富んだ作品です。

### 北海道知事賞

函館市立深堀小学校6年  
丸山 一樹

### 「一本背負い」

◎しっかりした観察力に基づきダイナミックな  
動きを見事にとらえた正確な表現の作品です。



目次	帯広・十勝大会を終えて……2・3
	帯広大会に参加して……………4
	青森大会に参加して……………5

十勝サークル紹介……………6
立体造形展を終えて・原点……7
クレパス・あとがき……………8



# 北海道 造形教育 連盟報

No.84 1989.12.4 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務所 〒064 札幌市中央区宮の森4条11丁目4の1  
札幌市立三角山小学校 ☎643-1133

# 「君は いま 創造のとりこに」

## 第39回全道造形教育研究大会

### 帯広・十勝大会を終えて

帯広市立啓北小学校教諭

本間 義視

#### 1. はじめに

39回帯広・十勝大会を終えて、いま、快い疲れを楽しんでいるところです。

幼児から中学生までの授業、開会行事・分科会・夜のレセプション、そして、翌日の実技研修や閉会行事等の日程をよくぞ無事クリアできたものだと、関係者一同ホッと胸をなでおろしているところです。

思い起こせば、昭和62年春の連盟総会の席上で今大会を正式にお引き受けしてから、私たちの頭の中は、いつも「サンキュウ大会」でいっぱいでした。なにせ、22回大会以来の出来事だったのですから。

いま、だれにあっても挨拶は決まっています。「やあ、よくやったもんだな。」

#### 2. 取り組みの始めは……

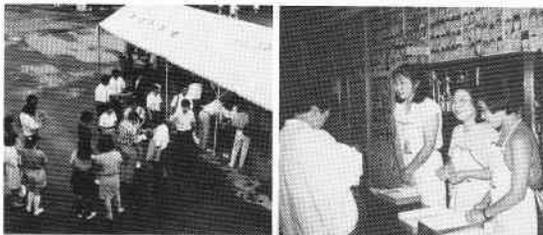
「そろそろ、大会がきそうだな」「帯広・十勝でやることになったとよ」「いよいよやるんだな」「しっかりやんなくちゃ」……予感が現実となり、決意が固められていく過程で、「どうせやるなら」という開き直りともいえる構えが、私たちの胸の中に生まれてきたのは確かです。

「どうせやるなら」……33回大会を、ここ帯広・十勝の風土ともいえる、おおらかで、明るく、さわやかなものにしたい。「どうせ子供も大人も一つ屋根でひと時を過ごすんだから」……せめて子供たちには喜んでもらえるものにしたい。「どうせ造形教育に真正面から立ち向かうなら……子供たちへの願いや要求は、まず私たちが自ら為してみようや。」

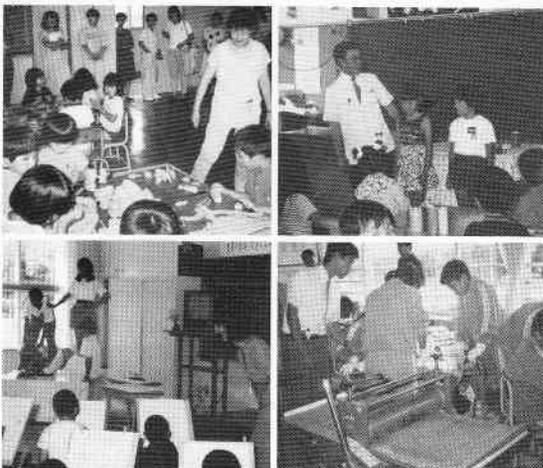
このような私たちの意気込みをまとめ上げ、研究主題の設定や、子供たちをとりまく実態調査の準備に具体的に乗り出したのは、昭和62年の秋の頃でした。

開き直りではありましたが、私たちは、「取り組みの始めは子どもと一つ鍋」を実践したかったのです。

#### ▼第1日目受け付け



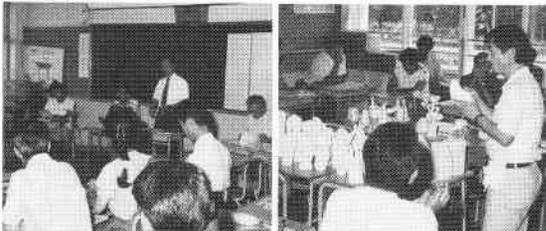
#### ▼授業



大会長挨拶

歓迎セレモニー

#### ▼分科会



▼歓迎レセプション



▼2日目実技研修



運営委員長(右)と次期開催地(苫小牧・左)代表



3. 大会の様子

大会の様子については、まもなく「研究集録」が発刊されますので、ここには記しません。

ただ、スナップ写真を主な大会日程に従って構成してみました。参加された方は当日を思い起こし、また、都合で参加出来なかった方は様子を想像していただきたいと思います。

4. 成果と課題

大会を終えたいま、私たちは、たくさんのことを学びました。同時に、たくさんの課題を抱えていることも痛感しています。

成 果

1. 直接・間接に携わった子どもたちが、「参加してよかった」と喜んでくれていること。
2. 連盟の研究主題や多くの先生方から、造形教育についてたくさんのことを学んだこと。
3. 十勝管内はもちろん、全道各地の「造形教育仲間」の輪が広がられたこと。
4. 大会が刺激になり、特に造形教育に関する私たちの意識が高まったこと。

課 題

1. 大会紀要に示した「教材研究・教材開発・子ども理解」の研究を具体的に深めること。
2. 「教科・教室・学校」の枠を越えた造形教育の実践を広めること。

5. おわりに

私たちは、多くの方々にお世話になりました。本部役員の方々、物心両面から支えてくださった関係機関や関係団体の方々、そして会場校の先生方やPTA・地域の皆様、とりわけ子どもたち。さらに全道からかけつけてくださった先生方……。 「ありがとうございました」としか申し上げられないのが心残りです。

いつまでも「快い疲れ」を楽しんではおられません。私たちは、これを機にさらに勉強することを約束します。

末筆になりましたが、皆様のさらなるご活躍と苫小牧大会が大成功されますよう、心よりお祈り申し上げます。

# 帯広大会に参加して

## 実技講習

札幌市立栄小学校 鈴木 将夫

帯広大会の実技研修は、とても充実したものでした。それは、各講師の方々と内容が豊かであったからかと思えます。

「季節の花を描く」安達先生、「展開図のいらぬ紙立体」伊藤先生、「コンピュータで絵をかこう」坂上、對島、棚瀬先生、微妙な明暗を表現する木版画、中谷先生、木っ葉像 小室先生、十勝石を彫ろう 陶守社長さんと並んだ実技研修は、今までの大会のように、どこにも一応顔を出しながら次々と見て歩けるものではなかった。とにかくどこかにねらいを定めてジックリ取り組まねばならないものでした。

私は、十勝石を研磨した面にパラフィンを塗り弗化水素酸で彫る実技研修に参加し記念になる作品を作ることができました。仲間の1人は、札幌に帰ってからさっそく弗化水素酸を求めて実践に取り組んでいます。

隣の教室で行なわれていた伊藤先生の教室は、幼稚園、小学校の女の先生が多く、伊藤先生のたくみな話術と適確な指導で笑いとり明るい雰囲気の中で紙立体に挑戦していました。

## ワインの味は友情の色

札幌市立川北小学校 長野 祐平

ワイン城に入ったのは、薄いはだ色を夕やけ空いっぱいに広大な十勝平野を染めている時であった。

レセプション会場で私達を迎えてくれたのはグリーンの芝生と荒々しい白樺の木々達であった。

私は歳がいもなく、はしやぎまわっていた。連盟の大会に参加すること20回にして、大空のもとでのレセプション。大地に生きているんだな……と実感。

何h. あるか知らないが大キャンパスに自己の存在を天然のカラーで描くことの喜びに酔いしていた。

ワインのおいしいこと。ワイングラスの向こうに顔じゅうを口にして笑っている帯広の先生方が見える。

おたがいにニッコニコして乾杯。初めて会ったとは思えない親しみさが満ちてくる。そうだ！日々造形に関する仕事で苦労してきた（熟成されてきたワインのように）なかま達がここ、大キャンパスに集い、だれかれとなく、うちとけあっている。それは個性豊かなワインカラーだ。炭火の小さなかがやく赤色の火。力強く、今でも心の中にしみてくる。

## 造形大会に参加して（美術教育が目指すもの）

札幌市立澄川中学校 村上 秀明

新教育過程が告示される中で、7年ぶりに帯広・十勝大会に参加してみました。今大会は、「個性の尊重」というべき一人ひとりの個性の違いを認めつつどのような指導の工夫を図ればよいか。どのような能力を養うのか。公開授業や分科会において熱心に展開されていたような気がする。特に、描画分野での人物クロッキーの授業では、墨汁による筆ペンで一人ひとりの形のとらえ方を尊重しつつ、基本的な事項を視聴覚機器を上手に使用してしっかり生徒に指導されていた。また、「立体」の分科会では、教え込みすぎることへの脱皮、どの程度まで生徒の自由な表現活動がゆるされるか、画一的な作品と個性的な作品評価をどうするかなど活発に意見が出されていました。最後に、21世紀の社会に対応する豊かな創造性や表現力を持った心豊かなたくましい子どもを育てるために美術教育が果たす役割は大きいと思う。自分で考え創造し表現する能力や態度を学校教育の場で育てている教科だと再認識して、大自然の十勝を後にしました。

## 中学校分科会に参加して

札幌市立柏中学校 多田 紘一

中学校分科会は平面と立体に分かれて交流され、立体の分科会に参加した。公開授業と実践発表をもとに話し合いがされた。

塊材で手を彫らせた帯広の中村先生の実践と、可塑性を使い、個々の生徒の発想で立体表現させた札幌屯田中央中の岡澤先生の実践が発表された。中村先生の実践は、直方体の形の中に手の中にある面の方向やつながりを如何に発見させ理解させるかがポイントの、割合合理詰め授業実践。一方の岡澤先生の実践は、素材から自由な発想で自分なりの制作構想を立てて生徒が取り組んだ実践の発表であった。

基礎的基本的な力を身につけさせながら、生徒の思考や作品を類形化形骸化させることなく生徒の持ち味を引き出させる制作課題や題材の設定、授業の展開など、より明確で発展性のあるものを生み出す実践の積み上げと、研究の交流による共通理解、共通課題の認識の必要性を感じた。

# 青森大会に参加して

## 青森大会によせて

札幌市立北光小学校 鶴賀 孝三

私は青森の子どもたちが取り組んだ版画の作品に興味と期待を持って浜田小学校へ出向いた。特に、集団画は、題材が何といっても素晴らしいと言うか東北独特の地域性がにじみ出ている。指導もさることながら子供たちの彫り上げる技術的なテクニックもなかなかみごとなものでした。つまり、集団画へ持って行く前段階までの各個人の版画に対する基礎がしっかりしていた。まず、製作にあたって意欲をそそるような取り組みませ方が印象的でした。普通、版画板に墨を塗って、下絵を描き……というパターンでなく、版画板には思い思いのカラフルな色づけ（一色ずつではあるが）をし、下絵を描かせて彫刻刀で彫り上げていた。次に、試し刷をし、部分修正をする時に原版に手をふれると手は汚れる。そこでTPシート（色紙大位）を敷いてそれに手をそえて彫刻刀で削っていた。そうすることにより版全体を見通せるし、手も汚れないという一石二鳥の試みをしていた。また、図工室に縦・横十文字に針金を張りめぐらせて作品を洗濯バサミでとめ乾燥や保存、お互いの鑑賞に役立っていたのが参考になった。

## 伝 統

札幌市立新陵小学校 葛西 良子

伝統の重みをずっしりと感じるねぶた祭りに出合い、なるほど青森の版画はここから生まれてくるのだとわかったような気がしました。

版画の授業の行なわれた浜田小学校も地域に根ざした地道な実践が披露されていました。1つの学校で全国の研究会をひき受け、系統だった授業ができるなんてなんとも羨やましいかぎりです。

各学年には、1教室ずつ資料室が設けられ授業が生まれてくる過程が見られました。

1年生では、版画はでこぼこを写しとって作るものと子ども達に気づかせる授業であったし、2年生では、紙版の分析、総合の学習を楽しく子どもに学ばせていました。

どの授業も教師のおしつけでなく、子どもに気づかせ学ばせていく姿勢が感じられました。

札幌の子ども、札幌の子らしいよさを育ててやらなければならぬなあと思って帰ってきました。

## ねぶたの青森大会

札幌市立八軒東中学校 安原 正

ねぶた祭の最中の研究大会で、街中が賑わっていた。その中で中学生ねぶたというのがあり、その大きさときれいさには驚いた。市のPTAが中学生にはねらせる（躍らせる）ために用意されたものだろう。中学生が父母や先生と一緒に楽しそうに明るくはねている様子はすばらしかった。

次の日の研究会の甲田中学校ではまた、ねぶた一色と云う感じがした。学校をあげて「造形活動を学校行事に生かし、中学生の創造力を向上させるにはどうあればよいか。地域に根ざした教材開発を通して、人間性豊かな表現活動の方向はどうあればよいか。」という総合領域のテーマに取り組んでいた。体育館に1年生全員400人ほどがはいってねぶた造りをしていた。そのあと笛、太鼓で踊り、行進をする様子も立派だった。

学年主任を中心にこれだけ、しっかりまとめられていることは、不断から研究実践の方向が明確化されているからと思える。学校教育目標達成のためどう研究を進めていくが学校全体で統一され、人のつながりを強くしたものとする。その目標達成のため美術の表現活動を主とし、道徳、特別活動、技能的教科を包括した豊かな人間性を育んできた、すばらしい研究大会であったと思う。

## おどろぎにあふれた青森全国大会

札幌市立札幌中学校 島 昇二

7月31日、8月1日の第9回全国中学校美術研究大会東京大会に続いて2日・3日の青森大会に安原先生と参加しました。

全体会場・青森市文化会館の1日目から人の集まることものごく、熱気にあふれ、東京大会をものぐ勢いがありました。2日目の甲田中学校の体育館に入っておどろかない人はいなかったと思う。総合領域の「生活班の象徴、守護神のかつぎねぶたをつくろう」であった。他も全部2回づつ回ってみた。絵画「ねぶたと私」彫塑「頭像」（この台にブナの角材が使用されていた）版画「働く人」（繊細な彫りにはおどろき）デザイン「動く形の平面構成」工芸「ブナ材のテープを使った器」午後の分科会に入っても体育館のねぶた作りはまだ続いていた。夕方から父母に見守られながら中学生ねぶた祭に入っていくという。

青森の夏の熱気がふきあがる大会であった。

# 十勝の造形教育

河東郡土幌町立西上音更小学校 横田 裕美

十勝は、日高山脈が十勝の西側を南北に連なり、十勝川が十勝の中心を南北にゆったりと流れています。

帯広を囲むように18町村から成り立っています。

十勝造形サークルが結成されてから39年の年輪を積み重ねています。

今年度は、全道造形教育研究大会に向けて40数名の会員が帯広市の図工・美術の研究を共にする諸先生と互いに協力しあい、その成功に向けて頑張りました。

## ◎十勝造形サークルの活動

### 1. 研究テーマ

#### (1) 研究課題

「全ての子供が生き生きと取り組む造形学習はどうあるべきか」

#### (2) 研究の重点

##### ① 喜びや意欲をわかせる造形学習

○活発に話し合いができる楽しい雰囲気の醸成

○地域の素材を生かした実躍、教材化、生活化

##### ② 子供の造形力を伸ばす指導

○造形の基礎を育てるための自由で豊かな発想と柔軟な感性

### 2. 主な活動内容

#### (1) 作品を語る会

参加者一人一点の作品を持ち寄り、その指導法について語りあいます。

#### (2) サークル小品展

年2回(秋・冬)油絵・水彩画・版面・工芸等の作品を帯広の展示場で行ない、既に32回展になります。

#### (3) 実技研修会

サークル員の中で、それぞれの分野で専門的に研究・追及している人を講師に研修会を実施します。

#### (4) 描画指導の指導のワンポイント集の作成

各校から寄せられたアンケートに基づき作成中です。

#### (5) サークル合同研究会での研究授業と研究協議

十勝ならではの研究会として既に18回を経過していますが18の単位サークルが一同に会して行ないます。

今年度は、本別町の小・中を会場に12月1日開催されます。

昨年度のことに付いて報告します。

一全ての子供が生きいきと取り組む造形学習はどうあるべきか—

を研究主題に芽室町の小・中を会場に開催されました。

##### ① 授業研究

小学校 出村英和先生 1年「ふくろうの笛」

中学生 佐藤晃一先生 2年「ポスター」

の授業を見せていただき、研究を深めました。

出村先生の授業では、「本時の目標である笛を作って遊び、楽しい造形活動を味わわせる」ことがほぼできたのではないかと、また、日常進めているグループによる助けあい学習ができた。」と授業者が述べている通り、作ることと音を出して遊ぶ大変楽しい授業でした。

中学校の佐藤先生の授業も「作品に取り組むまでの発想に時間が掛かる。意欲的に取り組ませるために、アイデアスケッチに時間をかけ、アイデアの豊かさや発想の新鮮さを大切にして授業を進めたい。」と述べている通り、大変学ぶべきものが多い授業でした。

##### ② 研究協議会

池田中学校の斎藤先生「アイヌの伝統的な模様を発展させた皮革工芸の製作」

人舞小学校の岡本先生は「身近な題材から出発した発見ノートの取り組み」

御影小学校の大石先生は「高学年の風景写生について」と三人の発表があり、盛会でした。

# 第14回 全道小・中学校立体造形展

第14回全道小・中学校立体造形展の審査は、9月から釧路、函館、室蘭、旭川、札幌の各地区で行われ、11月14日(火)には札幌で各地区からの審査員に北電代表、読売新聞北海道支社次長、広告部長を加えた計14名により全道審査会が行われました。

応募状況を見ますと、校数は昨年に比べ、少々減ってはいるものの、作品数の総合計は昨年を200点も上回る、3,942点でした。

今回も各地区、大作、力作ぞろいでしたが、何といても素材の多様さが目を引きました。材料収集には父母の方の絶大な協力があつたのだということで、素材には従来の紙、木、粘土の他、段ボール、発泡スチロール、スポンジ、空き缶、空きびん、紙コップ、包装紙、紙袋等の身近材や石、木の皮、とうもろこしの皮、どんぐり、松かさ、すすきの穂、かぼちゃの種等の自然物を上手に組み合わせて使い、作品づくりがなされていました。又、紙の上に塗料をかけ、一見、金属のように見えるような作品もあり、つくるだけでなく、仕上げまで様々な工夫がされていました。

札幌の審査会場は、今年から三角山小学校に所を移しての第一回目となりましたが、佐々木校長先生自ら受付や準備の指揮をして下さり、盛会の内に審査を終わることができました。たくさんの作品を汗をかきかき運んで下さいました皆様、お忙しい中、審査に駆けつけて下さいました皆様、有難うございました。

(富所)



札幌地区審査風景 上…中学校 下…小学校

## 原点

### 今日の子ども達

芝木 捷子

今の子ども達は、という言葉はいつの時代にも言われてきたのだと思います。そのことだけを掲げて物を言うてはいけないと思いつつ、考えさせられる事の多い昨今です。親子や小さなグループで遊んでいてそれで足りなくなると、様々な教室に通い足りない部分の穴埋めをしてもらおうという他人任せの育児が横行している様な気がします。又身体全体を使って充分遊んでいない為に年齢相応の体に育ってきていない、従って心身共に育ってこない子ども達にどの様に関わっていったらよいか毎日悩み、迷っています。子どものことだけでなく、その親の

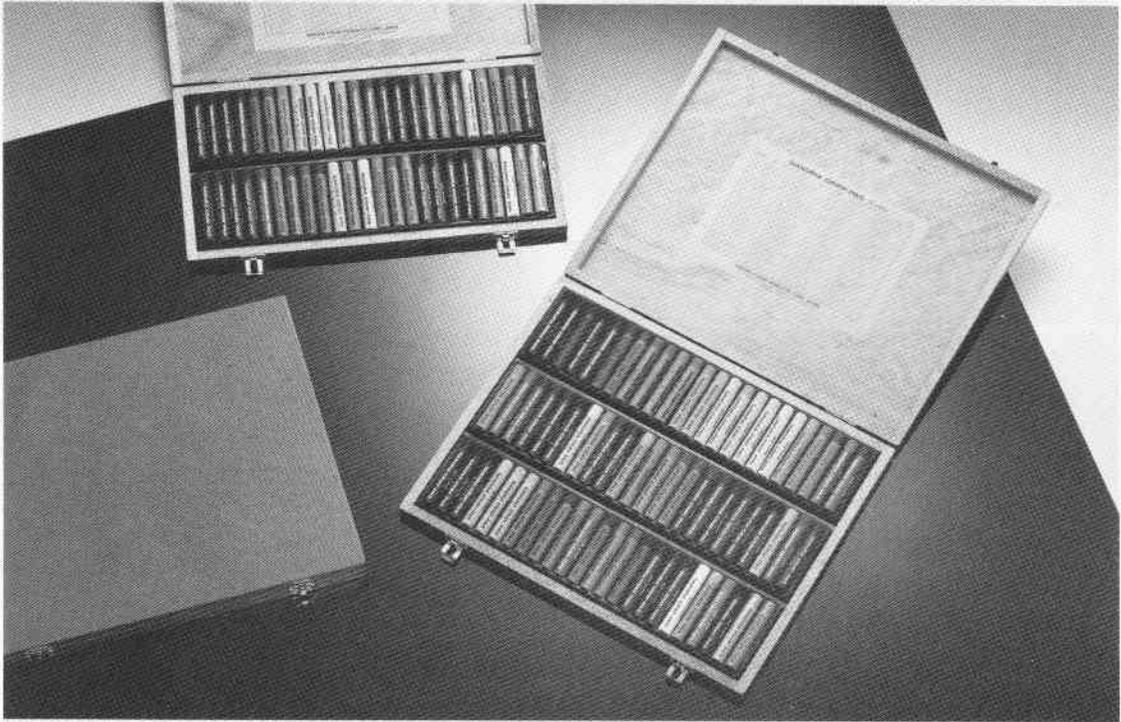
ことまで考えての新指導要領とも聞いています。私達教師が一日4時間強の時間の中で出来ることには限りがあり、そして自分の力の無さに悲しくもなってしまう。

自己中心的と言うことを考えてみると、3歳の子どもには当然のことですが、6歳になっても自分のことしか考えられず、友達がちょっと強く話しかけると、「いじめられた」になり、自分がいたずらをして「友達のをわざ」として報告しています。親の前では良い子でいて、幼稚園に来てそのストレスを発散しているような子どもも少なくありません。子どもが一人の人間として成長していくために、今なにをしていかなければならないかを日夜考え、悩んでいます。

新発売



# サクラクレパス 太巻 48色・72色



- 感じた色を感じたままに表現するのに適した、色数の豊富な使いやすいクレパス。
- お子様から専門家の方まで、全ての方に喜んで安心して使っていただける、最高級の顔料を使用したクレパス。
- 高級木製ケース入り。
- 配色表

銘	柄	略号	小売価格	品 No	包装単位	梱入数	JANコード
サクラクレパス太巻48色		VP48	4,500円	104006	3コ	15コ	4901881104008
サクラクレパス太巻72色		VP72	5,500円	104014	3コ	9コ	4901881104015



株式会社サクラクレパス 札幌営業所

札幌市中央区南4条西13丁目  
☎064 TEL (563) 5161 (代)

## あ と が き

この度、協賛会員に「銀鳥」さんが加入されましたのでお知らせいたします。これで協賛会員は12社になりました。これからもよろしくご協力お願いいたします。

帯広大会が終わって、4ヶ月過ぎましたが、当日の盛会を思い出しながら帯広大会の報告を中心に編集しました。

平成2年度は苫小牧での大会です。紙の大会になりそうです。みなさんでカミワザを学びに集まりましょ

う。

永井恭子(平岡小) 島 昇二(札幌中)  
塚野昭臣(附属中) 伊藤善彬(曙 中)